

# 5年間のQGIS普及活動を続けたら 国有林事業が円滑化した話

十勝東部森林管理署

妻藤 荘史、黒岩 竜大

管内において人工林の多くが利用期を迎える中、計画的な間伐や主伐、再造林等の森林整備事業を行うに当たって、限られた労働力でこれまでと同様、もしくはそれ以上の事業を実施するには効率的な事務処理が欠かせません。当署では、長らく紙で作成・配布してきた森林計画図について、森林施業や路網整備等、地理情報のICT化を課題としていました。そのため、事業計画の図面等における手書きの解消や、発注者と受注者の間でのやりとりの効率化に向け、令和2年度以降、職員や管内林業事業体を対象としたQGISの利用普及を続け、事業のデータや森林計画等の地図情報をICT化しました。

## 5年間の取組内容



### 普及活動

国有林職員や管内林業事業体を対象としたQGISの利用普及活動をR2年度から実施

- 取組の種類
- 講習会の内容
  - 操作マニュアルの公開等
  - データ整備

国有林職員

林業事業体・一般利用者

基本操作(R1~R6)

基本操作(R2,R3,R5)

局管内へ取組内容を共有(R5)

マニュアル公開(R3,R5)



データセット配布

QField操作(R5)

スタイル付データ(GPKG)配布

基礎

応用



### データ整備

林業事業体・一般利用者向け



GeoPackage化した国有林データを管内の林業事業体へ配布し、事業の円滑な実施に資する共通様式を整備

国有林職員向け



Excel等で作成した実務データをGISに紐づけ

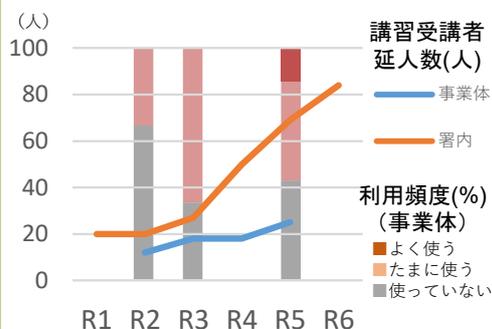


作設結果図の統一様式を作成・配布

## 5年間の成果

### 署主催講習の受講者

#### QGIS利用頻度(※アンケート結果より)の推移



森林整備事業において、発注者と受注者のやりとりが円滑化した

Before

- 発 基本図を紙配布
- 受 作業道等の情報を手書きした基本図を納品

図面情報の確認・集計に多大な労力

After

- 発 基本図をデータ配布
- 受 現地情報をQGISで作成・データ納品

✓既設作業道を一元管理  
✓QGISが協働のためのツールに

## 今後の展望

✓講習会の継続的な実施

✓QGISを活用する人材の拡大

過去の施業履歴や路網等の情報を正確に継承し、円滑な事業実行や森林計画の作成へ活用するとともに、時系列的な森林管理を実現

✓データ整備の継続

✓操作方法の技術継承

✓データを正確・円滑に共有

